



UNIC Tokyo Dateline UN

June / July 2003 Vol.42

国際連合広報センター

夏のUNギャラリーでアフリカを楽しもう！



展示「5つのアフリカ物語」を案内するのはカメレオンのレオン(右)。この夏、UNギャラリーを訪れてアフリカ通になろう！



UNギャラリー、渋谷スタンプラリーに初参加

UNギャラリーは、このたび初めて「渋谷スタンプラリー～マジカルタウン探検隊」に参加することになりました。スタンプラリーは、渋谷駅周辺にある参加施設（NHKスタジオパーク、たばこと塩の博物館、電力館、こどもの城、東京都児童会館、そして2003年からUNギャラリーが新たに参加）の各々の特徴と夏休みの催事を、特に子どもを対象として行っています。

子どもたちの健やかな育成を目的としたスタンプラリーは、今年で第20回を迎えます。期間中には毎年、各館延べ10万人の人が訪れ、夏休み恒例の行事として定着しています。

UNギャラリーは2001年4月にUNハウス（国連大学本部ビル）の1階と2階にオープンし、以来、国連の諸機関とその活動を様々な展示を通して紹介してきました。日本は今年を「アフリカ年」と定め、秋に開催される第三回アフリカ開発会議（TICAD III）に向けて各地でアフリカ関連イベントが計画されています。UNギャラリーにおいても、まだまだ理解されていない本当のアフリカの姿を知っていただくために、「5つのアフリカ物語～アフリカの自然と文化展～」と題した展示を7月20日（日）から8月31日（日）まで開催します。多様なアフリカの姿を自然と文化の観点から、夏休みの子ども向けに紹介する予定です（ギャラリー展示の詳しいご案内は2-3ページに続きます）。

《渋谷スタンプラリー》

6つの施設すべてのスタンプを集めると素敵な景品がもらえます。さらに各館に隠された文字でパスワードを完成させれば、ダブルチャンス景品に応募できます。UNギャラリーを皮切りに渋谷の夏を探検しよう！

INSIDE

UNギャラリー夏の展示 「5つのアフリカ物語」から	2-3
世界に飛び出せ日本人国連職員	4
人間の安全保障報告書・要旨	5
日本政府によるイラク支援	6
国連イラク特別代表	7
新しい軍縮問題担当事務次長に 阿部信泰氏	7

<http://www.unic.or.jp/>



スペシャル・ウィーク

7月28日～8月2日：北アフリカ
8月4日～9日：東アフリカ
8月11日～16日：南アフリカ
8月18日～23日：西アフリカ
8月25日～30日：中央アフリカ

Nature & Culture

お国自慢パネルを楽しもう

各国が誇る自然と文化をパネル展示でお楽しみください。出展する各国大使館が「わが国といえば…」と真っ先に説明する自慢の数々を写真パネルでご紹介します。

Puppet Show

人形劇：カメレオンの冒険を上演

アフリカに伝わる昔話をオムニバス形式の人形劇でご紹介します。観客の子どもたちも参加できる体験的人形劇に乞うご期待。
上演日：毎週土曜日 13:00～、15:00～ の2回

レオン(右)と一緒にアフリカを冒険しよう！



今年は日本における「アフリカ年」。秋に開催される第三回アフリカ開発会議（TICAD III）を目前に、全国各地でアフリカを盛り上げる様々なイベントが行われています。

53カ国もあるアフリカのまだまだ伝え切れていない魅力に注目し、UNギャラリーでは、その多様なアフリカの姿を豊富な自然と文化を中心紹介します。期間中、各週ごとにアフリカ大陸の5つの地域を特集し、その地域ならではの情報をお伝えします。毎週土曜日には各地域の文化を見聞、体験できるプログラムを用意しています。

期 間：2003年7月20日（日）～8月31日（日）

※休館日：7/21（月・祝）、27（日）、8/3、10、17（日）

時 間：10:00～17:30

場 所：UNギャラリー（UNハウス1、2階）

主 催：国際連合広報センター、国際連合大学

後 援：在日アフリカ外交団

入場料：無料

African Fashion

民族衣装を着て記念ハガキを作ろう

アフリカといえばカラフルな民族衣装が有名。めったに袖を通すことのできない貴重なものを含め、数多くの種類が揃っています。毎時先着20名の方には、国連切手を貼ったハガキに衣装を身に着けた記念写真をプリントするサービスがあります（有料）。UNメール・ボックスに投函すれば、ニューヨーク国連本部の消印付きで送付できます。

Message Tree

アフリカへのメッセージを木に飾ろう

来場者の寄せるメッセージをギャラリー1階のツリーに飾ります。皆さんからのメッセージ・リーフで緑に茂った木を生み出してください。

Africa for Kids

絵本とクイズで知るアフリカ

アフリカの豆知識がたくさん詰まったこのコーナー。自由に絵本を読んだり、昔話を楽しみながら、知らなかつたアフリカの素顔を発見できます。

Special Event

7月26日は "All that Africa"

アフリカの大地を舞台にしたアニメーション『キリクと魔女』の特別試写会に続き、民族衣装のファッション・ショーにアフリカン・ミュージックのコンサートと、まさにアフリカを満喫できるカルチャー・イベント。どなたでも自由に参加でき、生のアフリカを楽しめます。

*イベントの詳細は国連広報センターのホームページ <http://www.unic.or.jp> でご確認ください。なお、映画試写会への参加は事前の申し込みが必要です。

《マリ国立民族舞踊団》

マリの伝統音楽と舞踊を継承しながらも、時代に沿ったテイストを加味した熱いパフォーマンス。人類の重要な芸術文化遺産ともいわれる貴重なステージをこの機会に是非お楽しみ下さい。

マリ国立民族舞踊団に関する情報は
<http://www.fan3.org> でどうぞ。



協力 : FAN3 - ファンサー

《キリクと魔女》

スタジオジブリ第1回洋画アニメーション提供作品となる本作品は、人類が誕生したアフリカの大地だけが生み出し得たまったく新しい世界の神話。アフリカの大地を舞台に、主人公の小さなキリクが大きな好奇心で世界を変えます。愛とゆるしと喜びの物語をお楽しみください。

映画に関する情報は <http://www.albatros-film.com> でどうぞ。



『キリクと魔女』 夏休み、恵比寿ガーデンシネマ他
全国拡大ロードショー



African Mask

オリジナルのアフリカン・マスクを作ろう

祭典や儀式で目にするマスク(仮面)は、アフリカの文化の象徴的存在。いろいろな種類の型紙に色を塗って、自分だけのオリジナル・マスクを作りませんか。

<UNギャラリー展示・試写会に関するお問い合わせ先>
 国際連合広報センター 薬袋(みない)・深山(みやま)
 Tel: 03-5467-4451

"chefe tribal"
(アンゴラ大使館提供)

~在日アフリカ外交団を代表して~

チュニジア大使からの メッセージ

今年、日本ではアフリカに関する主要な国際会議が開催されてきました。この夏は、国連広報センターがUNハウス内のUNギャラリーにおいて、「5つのアフリカ物語



—アフリカの自然と文化展」(7月20日～8月31日)を開催します。このイベントは、広く一般の方々に向けて行われるもので、特に日本の若い皆さんを対象に「渋谷スタンプラリー」と並行して実施されます。展示を通じ、自然という観点からだけでなく、その文化的遺産にも触れる事によって、アフリカ大陸の多様性に出会う絶好の機会となるでしょう。アフリカ外交団は本イベントに参加できることを光栄に感じ、この夏、大勢の日本の方々がUNギャラリーを訪れ、さまざまな催しに参加する姿に出会う機会を楽しみにしています。

今年の一連のイベントは全て、日本におけるアフリカ年を締めくくる「第三回アフリカ開発会議(TICAD III)」へと結びついています。2003年9月29日から10月1日に開催されるTICAD IIIは東京に各国元首や政府、国際機関、民間部門、市民社会の代表およびマスメディアが集い、アフリカの開発問題について話し合う大きな催しです。

私はこの機会にアフリカ外交団を代表し、日本政府と日本の皆さんに対し、アフリカへの注目を感謝するとともに、UNギャラリーでのイベントへ皆さまのご参加を心よりお待ち申し上げます。

駐日チュニジア大使
サラ・ハンナシ

Working for the People

世界に飛び出せ 日本人国連職員

文・中井裕真さん
国連児童基金（ユニセフ）

ソマリアという国をおぼえていらっしゃいますか？ 1990年代のはじめに国が崩壊し、以降、中央政府が無いまま今に至る、「アフリカの角」と呼ばれる地域の先端の、「く」の字を反転させたような形をした国です。国土は日本の約1.8倍。南北に長く、600万の人口の半分近くが集中する中・南部は、緑も多く、色鮮やかな鳥が空を飛び交い、早朝遠くから聞こえるカバやサルの鳴声で目を覚ます…なあんてことも。一方、北部は雨もほとんど降らず、一面岩や小石の乾いた大地が延々と続きます。北東部のアデン湾沿いは年の半分以上が摂氏50度以上。地元の人でさえも逃げ出すような苛酷な環境です。

中央政府崩壊後のソマリアは、度重なる内戦や強盗・誘拐、飢饉・洪水等の人災・天災に翻弄されつづけている国というイメージで捉えられています。私も、自ら望んだソマリア行きではあったものの、赴任する直前は、正直「大丈夫かなあ？」「行くのやめようかなあ？」と悩んでいました。故に、かの地での2年半が、まさかこんなにも「前向き」な気持ちにさせてくれるものとは予想もしていませんでした。

内戦でユニセフの住居を兼ねた事務所に2週間缶詰にされたり、繰り返し仕事の中止と避難の憂き目に遭ったりと、確かに「イメージ通り」の体験をすることはありました。が、そんな場所であるからこそ、他では経験できなかつた、勉強できなかつただろうことがソマリアにはゴロゴロしていたんです。「頼れるもの」がほとんど無い中で、人々の間には「自分たちで何かをしなければ」とい

現在、多くの若い日本人国連職員が世界各地で働いています。その分野は、紛争地での人道支援、開発途上国での識字教育、保健サービスや環境問題への取り組みなど多岐にわたります。Dateline UNでは、国連職員の仕事ぶりとその素顔を随時ご紹介していきます。

今回ご紹介するのは、現在、国連児童基金（ユニセフ）駐日事務所に勤務する中井裕真さん【写真右】。中井さんは2000年11月から2003年3月までユニセフ・ソマリア・オフィスに勤務しました。



う意識がとても強く、それに応える形のユニセフの支援も、我々が落とす一滴からできる波紋の大きさが「普通の国」で見られるものの比ではなかったんですね。



中央政府崩壊直後の略奪や内戦によって破壊された小学校を、親やコミュニティが再開させている（UNICEF/HQ00-04781/Chalasani）

例えば初等教育。ソマリア全土で親御さんたち・コミュニティが、なけなしのお金や労力を出し合い、自分たちで小学校を建て先生たちを呼んで来ています。そこではじめて、ユニセフに「教科書をくれないかい？」「先生のトレーニングをしてくれないかい？」と。私の滞在した2年半の間に、小学校が850校前後から1,000校を超えるまでになりました。昨年、日本政府からいただいた4億円を超える資金で、今ますます「波紋」が広がっています。

もう一つの例が都市部での安全な飲料水の供給。ユニセフはソマリアの企業家に資金を出し合ってもらい、上水道供給会社・公社の立ち上げを支援しています。現在6箇所で進行中。中部の街ジョハールでは、この会社の売上げを使って小学校を建て、今度は中学校を建てようとしています。北部の港街ボサソでは、毎月4,000～5,000米ドル

の粗利益を計上していて、更に多くの家庭に飲料水を供給するため、設備の拡充を図っています。数字だけを見れば、4人に1人の子どもが5歳になるまでに死んでいたり、8人に1人しか小学校に行ってなかつたりと、世界

でも1、2を争う深刻な状況です。目を覆いたくなるような状況を捜すのにも苦労は要りません。内戦も続いているし、和平プロセスも遅々として進んでいません。でも、ソマリア人の大多数



ソマリアでは4人に1人の子どもが、はしかや下痢、呼吸器疾患などの病気で5歳になる前に死亡している（UNICEF/HQ00-00500/Chalasani）

からは、「自らの手でこの街を、この国を作っていく」という意気込みが強く伝わってきます。

国際社会は再びアフリカの支援に目を向けつつあるようです。そして、アフリカの人たちも自らの力でやっていく、方向付けをしていくという強い意思表示・行動を起こしています。そんなプロセスからは見落とされてしまっているかも知れないソマリアですが、ひょっとしたら、アフリカと国際社会の関係作りのヒントになるような動きが、この「忘れ去られた国」に幾つかあるような気がするのです。

人間の安全保障委員会・報告書から

Protecting and Empowering People

2003年5月に人間安全保障委員会が発表した報告書の要旨から、同委員会の提案する新たな安全保障の枠組みとアプローチ方法についてまとめました。

今日の商品、サービス、金融、人のグローバルな流れが物語るとおり、世界の人々の安全保障は相互に結び付いています。政治の自由化と民主化は、新たな機会を生む一方、政治・経済不安および国内紛争など、新たな断層も作り出しています。

国家は引き続き、安全保障に第一義的な責任を負っています。しかし、安全保障上の課題が複雑化し、さまざまな新しい行為者が役割を果たそうとしている中で、対応策の変換が必要となっています。国家から人々の安全、すなわち人間の安全保障へと焦点を広げなければなりません。

人間の安全保障は国家の安全保障を補完し、人間開発を促進し、人権を強化します。それは人間を中心に据え、国家の安全への脅威として見なされていなかった「不安定なもの」を取り組むことにより、国家の安全保障を補完することを意味します。

委員会が特に重点をおいて検討したのは、紛争と貧困に関連する次の6分野です。

①暴力的紛争における人々の保護

紛争の主たる被害者となる一般市民を保護するための規範とメカニズムの双方を強化することが必要です。そのためには、政治、軍事、人道および開発の諸側面を結びつける、包括的で統合的な戦略が不可欠です。委員会は、人間の安全保障をあらゆるレベルの安全保障組織の正式な議題に掲げることを提案します。

②移動する人々の保護とエンパワーメント

紛争や深刻な人権侵害により逃亡を余儀なくされた人々や、慢性的な欠乏状態や突然の経済危機を逃れるために、故郷を捨てざるを得ない人々がいます。現在のところ、難民を除き、こうした人々を保護したり、移住を規制したりするための国際的枠組みはありません。各国の安全保障および開発のニーズと、移住者の「人間の安全保障」との調和を検討するハイ

レベルな話し合いの基盤を確立し、国際的な移住枠組みを実現する可能性を探るべきです。

③紛争後における人々の保護とエンパワーメント

停戦合意と和平により紛争が終結することはあっても、それは必ずしも平和と人間の安全保障の到来を意味しません。紛争中に人々を保護する責任は、再建の責任によって補完すべきです。紛争によって引き裂かれた国家を再建するには、人々の保護とエンパワーメントに重きを置く、新たな枠組みと資金調達戦略が必要です。そのためには、人間の安全保障の提供において中心となるすべての当事者を統率するための一元的なリーダーシップの確立が必要です。

④経済不安～機会を選択する力～

市場の適切な機能や、その他の制度の開発が貧困根絶への鍵を握っています。効率的で公平な貿易の取り決め、極貧層にも裨益する経済成長、および、利益の公正な分配が不可欠です。慢性的な貧困に取り組むだけでなく、人間の安全保障は突然の経済低迷、自然災害および危機の社会的影響にも重点的に取り組みます。

⑤人間の安全保障のための健康

保健の進歩にもかかわらず、2001年には2,200万人が予防可能な病気で死亡しています。世界規模の感染症、貧困関連の脅威、および、暴力によって生じる健康の悪化はその緊急性、程度および影響において特に重大です。すべての保健関係者は公共財として、保健サービスを促進すべきです。

⑥知識、技能および価値観

～人間の安全保障のために～

知識、生きる上で必要とする技能および多様性の尊重を教える基礎教育と広報は、人間の安全保障にとって特に重要で

す。委員会は国際社会に対し、少女の教育を特に重視しながら、初等教育の完全普及及達成を積極的に援助するよう求めます。

以上に基づき、委員会は次のような政策的結論に達しました（下コラム参照）。各々の政策的結論には共同の取り組みが必要です。つまり、統合的な活動に着手し、進歩と実績を監視することのできる官民および市民社会に関わる人々のネットワークの構築です。同時に、効果的かつ十分な資源の動員も必要です。追加的資源の提供に向けたコミットメントを強めるだけでなく、最も困窮している人々へと援助の重点を移さなければなりません。また人間の安全保障基金の方向性を定め、委員会の勧告に関するフォローアップを行うために、「人間の安全保障諮問委員会」の設置も勧告しています。

今後、委員会は強力なグローバル同盟を作り出すため、国連とブレトンウッズ機関を中心に、関係国、国際機関および市民社会からなる中核的グループの開発を提案しています。

人間の安全保障委員会による政策的結論

1. 人々を暴力的な紛争から守る
2. 人々を兵器の拡散から守る
3. 移動する人々の安全を支援する
4. 紛争後の人間の安全保障暫定基金を設立する
5. 極貧層のための公正な貿易と市場を奨励する
6. 全ての場所において最低限の生活水準の確保に努める
7. 基礎的な保健医療への普遍的なアクセス確保に一層高い優先度を置く
8. 患者の権利のための効率的で公平なグローバル・システムを開発する
9. 基礎教育を完全普及し、あらゆる人々のエンパワーメントを図る
10. 個人が多様なアイデンティティと所属を有する自由を尊重しながら、グローバルな人間としてのアイデンティティの必要性を明確にする

ユニセフによるイラク救援活動への拠出金、日本が第1位に

People in Iraq. UN for the People in Iraq. UN for the People in Iraq. UN for the People in Iraq. UN

日本政府は、イラクの学校の再開を支援するため、国連児童基金（ユニセフ）に1,020万ドル（約12億円）を拠出しました。これにより、ユニセフのイラク緊急支援に対する日本の拠出総額が1,500万ドル（約17億7千万円）を超えるました。これまでにイラクの子どもたちを救うためのユニセフの呼びかけに応じた政府の中で、日本の拠出額が最大となっています（6月2日現在）。

ユニセフのキャロル・ベラミー事務局長は、「日本がイラクの子どもたちの差し迫ったニーズのために、素早く、しかも多額の資金を提供してくれたことを嬉しく思います。状況がきわめて切迫していることから、私たちは日本政府の強力な、素早い支援に感謝しています」と述べました。

初等教育制度を再開させることは、戦後のイラクにおいて最も重要な課題の1つです。ユニセフは、子どもたちが再び学校で学べるようにすることを活動の優先事項としています。

イラクにある8,500校のほとんどが修繕を必要としており、学齢期にある1,200万人の子どもたちすべてを受け入れるために、新たに5,000校を建設する必要があります。現在、安全な学校施設と訓練を受けた教師が不足していることから、多くの学校が交替制で授業を行っています。また、飲み水を確保できる学校が半数に満たないなど、小学校での衛生環境の悪さも重大な問題となっています。



精神に障害を持つ子どもたちのための施設で少女を抱きしめる女性スタッフ。ユニセフは子どもや傷つきやすい人々のため



ユニセフによる水の配給が行われ、水の入った大きなポットをかかえて笑顔を見せる少女。ユニセフは消防士を雇い、消防トラックを使って水と電気のない市内のあちこちへ安全な水を配給している（4月下旬、バグダッド郊外のサダメシティで）UNICEF/HQ03-0193/ROGER LEMOYNE

ユニセフは全国の教室に5万個以上の「school-in-a-box」キットを配布し始めました。それぞれのキットには、80人の子どもに行き渡る学用品と教材が入っています。この配布が終了した段階で、およそ400万人の小学生に鉛筆、ノート、小型の黒板などの学用品が支給されることになります。

今回の日本からの拠出金は教育支援に使われる予定で、3都市の計100万人以上の子どもたちが恩恵を受けることになります。この拠出金のおよそ350万ドル（約4億1千万円）は70校の復興支援に使われ（バグダッド30校、南部地域40校）、およそ620万ドル（約7億3千万円）は教育用の備品や道具の購入に使われる予定です。

およそ70万ドル（約8千2百万円）は、子どもを中心とした教育方法を取り入れることで教師の能力向上を図る研修にあてられます。子どもを中心とした教育方法の導入により、これまでイラクで主流であった昔ながらのトップダウン式から脱却し、子どもたちが学習プロセスへ積極的に参加できるような方式に移行することになるでしょう。

ユニセフによるイラク救援活動に資金拠出しているその他の主な国には、イギリス、アメリカ、オーストラリア、カナダ、欧州連合（EU）があります。

国連児童基金ホームページ (<http://www.unicef.org/newsline/>) より

イラク特別代表、着任にあたっての声明

コフィー・アナン国連事務総長によりイラク特別代表に任命されたセルジオ・ヴィエイラ・デメロ氏が6月2日、バグダッドに着任しました。同氏は、国連の支援のあり方についてイラクの人々の声に耳を傾けるため、同国の政治的、宗教のおよび市民的に重要な立場にある人々を含めた幅広い話し合いを持ちました。また、米英の当局者とも会談し、国連と国際社会がイラク支援をいかに実のあるものにするべきかの構想づくりを行いました。同氏は2002年9月より国連人権高等弁務官を務めていますが、今回の任命により、特別代表を4ヶ月間務めることになりました。

以下は着任にあたって同氏が発表した声明です。

イラクへ到着し、私は大きな名誉とともに、大きな責任も感じています。コфиー・アナン国連事務総長の特別代表として、私の唯一の目的は、その長く高貴な歴史における苦難の時代から、イラクの人々が立ち直れるよう、国連ができる限り援助することです。

イラクはあまりにも長い間、戦争、深刻な人権侵害、そして過酷な制裁措置などの多くの苦難にさらされてきました。イラクの人々はより良い扱い、それもはるかに良い扱いを受けてしかるべきです。

国連の任務は膨大です。私たちはすべて、極めて謙虚に、そして強い決意を持って、これを全うすべきです。国連は、復興から難民の帰還、経済発展、法律・司法改革、さらには文民統治に至るまで、数多くの重要な領域で役割を果たすことにより、イラクを援助するよう要請されています。そしてもちろん、国連の人道的な役割も継続、強化されることになります。

これに加えて、私たちが役割を果たすよう求められている重要な領域として、人権があげられますが、これは皆様もご存知のとおり、私の大きな関心分野です。この国のあらゆる人々、つまり女性にも、男性にも、そして子どもにも、保護・促進しなければならない人権があります。全てのイラク国民のために、法治と治安を確保しなければなりません。なぜならそれは、人権の確実な遵守に向けた唯一の道だからです。

また、最も重要な任務のひとつとして、国連はできる限り、代表的な統治を確立するための重大な取り組みの支援に努めることになります。イラクの人々が自らを治める日が来ることを早急に実現しなければなりません。

一つ明らかにしておきたいことがあります。それは、問題が急を要するため、迅速な対応が必要だということです。しかし、私たちはまた、イラクの人々の期待に添うように、取り組みの重複を避けながら、賢明な対応を行わなければなりません。

これは私たち全員がイラクで対処しなければならない課題です。この課題を克服するため、私は全力を尽くすつもりです。



セルジオ・ヴィエイラ・デメロ氏【UN/DPI】

新しい軍縮問題担当事務次長に

あべのぶやす
阿部信泰氏（日本）

略歴

阿部信泰氏（日本）が7月1日よりジャヤンタ・ダナパラ氏を引き継ぐ軍縮問題担当事務次長として、コфиー・アナン国連事務総長より任命されました。阿部氏は、2001年11月から駐サウジアラビア国日本大使を務めてきました。

阿部氏は1967年に外務省に入省し、軍備統制と軍縮の分野で幅広い経験をもつ外交官として活躍しました。政治と経済の問題を担当するのに加えて、在ジュネーブ国際機関の日本代表（1977－79年）、ニューヨークの国連代表部（1987－90年および1996－97年）、在ウィーン国際機関の日本代表（1999－2001年）として勤務し、多国間外交の豊富な経験を積んできました。

ボストンのハーバード大学ウェザーヘッド国際問題センターの国際フェロー（1986－87年）だった阿部氏は、後にそのボストンで日本総領事を務めました（1994－96年）。

阿部氏は宮沢喜一外務大臣の秘書官（1974－76年）、情報調査局企画課長（1984－86年）、G7サミット・サブシェルパ（1992－94年）としての職務を果たしました。また、総合外交政策局軍備管理・科学審議官（1997－99年）として核不拡散・核軍縮に関する東京フォーラムの開催に助力し、軍縮と核不拡散に関する多くの国際的活動に参加しました。また、氏は対人地雷全面禁止条約（オタワ条約）への日本の批准にも貢献しました。

ウィーンでは、包括的核実験禁止条約（CTBT）の実施を促進し、組織犯罪防止条約の銃器議定書の交渉をまとめる上で中心となって活躍しました。

阿部氏は1945年9月9日、秋田県生まれ。東京大学、および米国マサチューセッツ州アマーストカレッジで政治学を専攻。

「国際淡水年」を記念する国連切手ができました



国連は6月20日、“International Year of Freshwater”と題した切手を発行しました。

この切手は2003年が「国際淡水年」であることを記念して作られるもので、米国人アーティストのリック・ガルシア氏によるデザインが採用されています。水の尊さを訴えた3種類の記念切手は、湿地、滝、山間の雪解け水をテーマに鮮やかな色使いで描かれています。

国連切手は米ドル、スイス・フランおよびユーロの3つの通貨建てで発行されており、ニューヨーク、ジュネーブおよびウィーンの国連事務局にある国連郵便局から投函される場合のみ、通常の切手として使用できます。これに加え、東京・渋谷のUNギャラリー内に設置されたUNメール・ボックスでも国連切手（米国通貨のみ）を貼付したハガキを受け付けており、投函されたハガキはニューヨーク国連本部の消印が押されたのち、宛先に配達されます（約2～3週間かかります）。どうぞご利用ください。

第25回ユネスコ・アジア太平洋写真展

スポーツの喜び

25回目を迎えたユネスコ・アジア文化センター（ACCU）主催の写真コンテスト。今回の写真展では「スポーツの喜び」をテーマに、アジア太平洋21カ国から寄せられた2,158点の応募作品の中から、国際審査会で入賞した作品100点を展示します。その国ならではのスポーツや、人々が無心にスポーツを楽しむ姿に、それぞれの文化を垣間見ることができます。なお、この写真展は「日本ASEAN交流年2003」記念事業として開催されます。

日時： 2003年7月23日（水）～27日（日）

場所： 新宿三越7階大催物場（入場無料）

主催： 財団法人ユネスコ・アジア文化センター

詳細は <http://www.accu.or.jp> または Tel:03-3269-4436 へどうぞ。



「高原の遊び場」©ナン・ダーハオ（中国）



発行：国際連合広報センター

〒150-0001 東京都渋谷区神宮前 5-53-70 UN ハウス 8階

TEL: 03-5467-4451

FAX: 03-5467-4455

URL: <http://www.unic.or.jp> / E-mail: unic@untokyo.jp